補足資料３

市民向けワークショップについて

１　「読書×芸術文化イベント　おやこでたのしむからだあそび　絵本とダンス」

（１）目的

読書に親しみ、読書を通じた人と人との交流を生み出すことを目的としている「大野城市民読書活動推進計画」及び、芸術文化の他分野への活用を図ることを実行プランのひとつとしている「大野城市芸術文化振興プラン」に基づき、読書に関する事業と芸術文化に関する事業を一体的に行うことで、市民が各々の取り組みについて知り、興味を持ってもらう機会を創出するとともに、本事業を通して交流を生み出すことを目的として実施するもの。

（２）内容

日程	令和７年 11 月１日（土）※まどかフェスティバル内で実施
参加人数	34 名（親子 12 組）
進行役	岩下　愛氏（ダンサー）、DAI（アフリカンパーカッション奏者）
協力	大野城市読み聞かせボランティア　１名
内容	３歳から小学生を対象とした親子向けワークショップ。 芸術文化と絵本の読み聞かせを融合したプログラムとなっており、絵本の読み聞かせを聴きながら、絵本の内容に合わせた、身体を動かす表現（ダンス）を生の楽器の演奏に合わせて行う。 なお、小ホールで実施し、舞台照明の紹介や舞台上、客席双方を用いたワークとし、ホールならではの内容となっている。

（３）当日の様子

きょうだい児での参加者も多く、その場合は、数回同じワークを繰り返し、必ず、親と一緒に体験することを心がけた。子ども一人一人に寄り添うプログラムを講師とともに検討した。

（４）アンケート結果より（一部抜粋）

・イベントの中で一番印象に残っていることとして、イベントの内容そのものに関することや、子どもと一緒に楽しむ場面、子どもの変化が回答としてあげられている。特に、親子で身体を動かしたことを印象に残ったと回答している参加者が多かった。
・参加者は、読書や芸術文化活動などに双方に興味関心がある人が多い一方で、いずれも参加したがない、いずれかしか参加したことがない参加者もあり、新たな活動を伝える機会となったと考えられる。
・一昨年実施した同イベントへの参加者が、イベントへ参加したことをきっかけに、子どもと読み聞かせをする時間に変化があったと回答している。

（５）結果

・集客については、定員を満たすまでの期間が短く、一定のニーズがあると考えられる。特に、未就学児とその親との文化事業は、大野城市では多くなく、求められているのではないか。また、読書、芸術文化とそれぞれの興味の範囲からの参加があることから、相乗効果を生むことも考えられる。
・幼少期の芸術文化体験という点では、親も一緒に身体を動かすことで、子どもが安心して参加することができていた。イベント後、楽器の話を講師に聞いたり、ワークで取り上げた絵本を帰りに図書館に借りに行くなどのコメントが見られた。

（６）課題及び次年度以降の方針

・まどかフェスティバル内で実施していることから、使用できる会場が限られていることから、小ホールでは、これ以上定員を増やすことは安全管理上難しく、事業効果は限られた市民にしか提供できていないことが課題である。

２ 「おしゃべりワークショップ　わたしが知ってる大野城のはなし　北地区の巻」

（１）目的

市民にとって身近な場所であるコミュニティセンターで、芸術文化体験の機会を提供し、芸術文化を通して地域や市民の交流を創出することを目的とする。

（２）内容

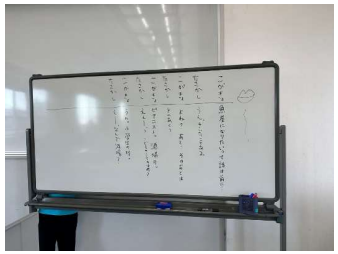
日程	令和７年 10 月 11 日（土）、18 日（土）、19 日（日）13 時～17 時
参加人数	11 名
講師	古賀　今日子氏、田坂　哲郎氏
内容	第１回　オリエンテーション 第２回　ラジオドラマ作成 第３回　ラジオドラマ作成、収録 〇第３回目の収録については、観覧可能。３名参加。 〇レポーター講座受講生の見学あり。

※本事業には、昨年度の同事業に参加した者で、「フォローアップの取組」に参加を希望した７名のうち、２名がアシスタントとして参加

（３）ワークショップの様子

①第１回　オリエンテーション

ワークで遊びながら、お互いを知る時間。講座の最後には、２人１組になり、筆談で「小さい頃の夢の話」を作成し録音した。



②第２回　ラジオドラマ作成

〇複数のワークで遊びながら、参加者同士の交流を深め、この後おしゃべりしやすくするための、

土台作りを行う。

〇ラジオドラマにしたいと考えてきたテーマをグループでおしゃべりしながら共有する。テーマを決め、実際にラジオドラマ作りに取り掛かる。

③第３回　ラジオドラマ作成、収録

〇ラジオドラマ台本の仕上げ、配役決め、練習、収録を行う。

（４）課題及び次年度以降の方針

・ワークショップで生み出される「世代を超えた交流」「まちを振り返り残す作業」など、本プログラム特有の効果や価値を周知する必要がある。なお、周知に際しては、参加の促しだけでなく、市の取組を知ってもらうこと、地域や各活動の場で、このような表現活動の場を取り入れてもらうことを念頭に、発信する場所や機会を引続き検討する。

・３日間という長期にわたるプログラムであることから、集客が難しいこと、全時間全日程出席が難しいことが課題として挙げられる。プログラムの内容上、時間をかける必要がある箇所もあるが、日程の設定、時間の設定など、参加しやすいものを検討する必要がある。

・これまで作成したラジオドラマの素材は、その作品も大野城市にまつわるものであり、大野城市の過去から現在の市民の様子があらわされたものになっている。次年度が最終年度であることから、完成した作品の放映など、発信する機会を更に検討したい。

以上